

2024 年 7 月 24 日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 外部連携団体からのお知らせ
- 3) 健康心理学コラム vol. 139 「認知症の人の介護家族のワークライフバランス」 森本 浩志 (明治学院大学)

1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshinri.jp/>)

■日本健康心理学会第37回大会 (11月23~24日@別府大学) のお知らせ (vol.6) (日本健康心理学会第37回大会準備委員会より)

1. 大会 HP を随時更新しております、ご確認ください
 2. 参加登録及び懇親会受付が開始されました
- 今大会は、事前参加登録 (10月16日まで) は、オンラインクレジットカード決済と銀行振込で対応します。
- 通常参加登録及び現地での当日参加は、オンラインクレジットカード決済のみとなります。会場での現金の支払い窓口は設置しません。銀行振込を希望の方は、事前参加登録をご利用ください。

■ヨーロッパ健康心理学会 Practical Health Psychology blog (PHPB, 実践健康心理学ブログ) の7月記事のお知らせ (国際委員会より)

“Understanding what influences organ donation”の日本語記事「臓器提供に影響を与える要因を知る」が掲載されました。

下記 URL よりご覧ください。

<https://practicalhealthpsychology.com/ja/2024/05/understanding-what-influences-organ-donation/>

※アクセスの際は、URL 全てをコピーしアドレスバーへペーストのうえご覧ください。

※ブラウザによっては開けない場合があります。その際にはお手数ですが、別のブラウザにてお試しください。

■公認心理師試験研修センター (旧: 日本心理研修センター) の名称変更のお知らせ (学会事務局より)

下記 URL よりご覧ください。

<https://www.jccpp.or.jp/topics.cgi>

■公認心理師制度推進室より「公認心理師法附則第5条に基づく対応について」の公表のお知らせ (学会事務局より)

下記 URL よりご覧ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/001271102.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/12201000/001271107.pdf>

2) 外部連携団体からのお知らせ

■第2回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査報告書に関するお知らせ (GEAHSS より)

日本健康心理学会が加盟している人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS ギース) より、第2回調査の報告書 (単純集計・クロス集計) が届きました。下記 URL よりご覧ください。

[https://5a0fef5-ad16-4b69-b4a6-](https://5a0fef5-ad16-4b69-b4a6-5275d5dee97f.usrfiles.com/ugd/5a0fef_d85d4be9a0d94d89a1bf115735ba44a1.pdf)

[5275d5dee97f.usrfiles.com/ugd/5a0fef_d85d4be9a0d94d89a1bf115735ba44a1.pdf](https://5a0fef5-ad16-4b69-b4a6-5275d5dee97f.usrfiles.com/ugd/5a0fef_d85d4be9a0d94d89a1bf115735ba44a1.pdf)

日本健康心理学会の会員のみなさまに報告書をご案内させていただくとともに、調査にご協力くださったみなさまにお礼申し上げます。

3) 健康心理学コラム Vol. 139

「認知症の人の介護家族のワークライフバランス」

森本 浩志 (明治学院大学)

家族の介護をしながら働く人が増えており、働き盛りの40代・50代では約75%の介護家族が働いています (総務省, 2023)。介護が必要になった理由の第1位は認知症ですが (厚生労働省, 2023)、認知症という病気の特徴から認知症の人の介護家族は、仕事と介護の両立において様々な苦労を経験しやすいとされています。一方で、仕事は介護から離れられる時間になるなど、仕事と介護の両立は介護家族にとって肯定的な影響もあります。両立生活の否定的な側面を少なく、肯定的な側面を増やすために、介護サービスに加えて、職場における両立支援制度などの社会的資源の整備が進められています。

介護家族の心理面に着目すると、これまでに私が行ってきた研究では、一方の役割 (例えば介護) の自己効力感の向上は必ずしもワークライフバランスの向上につながらないこと (Morimoto et al., 2018)、現在に注意を留めて体験をあるがままに受け入れ、自身の価値に沿った活動を増やしていくこと (心理的柔軟性の向上) がワークライフバランスの向上につながる (Morimoto, 2022) などが分かってきました。これまでの研究を踏まえて、今後は働いている多忙な介護家族にとって、負担の少ない心理支援の方法についても検討していこうと考えています。

引用文献

厚生労働省 (2023). 2022(令和4)年国民生活基礎調査

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>

総務省 (2023). 令和4年就業構造基本調査

<https://www.stat.go.jp/data/shugyou/2022/index.html>

Morimoto, H. (2022). Acceptance and commitment improve the work-caregiving interface among dementia family caregivers. *Psychology and Aging*, 37(6), 749-765.

Morimoto, H., et al. (2018). Can self-efficacy ameliorate interrole conflict among employed family caregivers? A moderated mediation approach. *Aging & Mental Health*, 22(8), 1005-1013.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < jahp@pac.ne.jp >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 < jahp@pac.ne.jp >

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<https://kenkoshinri.jp/health/health1.html#mailmagist>